

伊那西高校デジタルアーカイブのおすすめ

伊那市の歴史遺産を記録・保存・公開する

伊那市立高遠町歴史博物館

館長 塚田 博之

○学校の近くを中心に

1 御殿場遺跡 顔面付釣手形土器



縄文文化が花ひらいた伊那市域

御殿場遺跡は、富県小学校の東側にあり、国の重要文化財である顔面付釣手形土器はここから出土しました。

昭和41年（1966）年、この地の開田事業に先立って緊急発掘調査が行われ、縄文時代中期中葉の住居跡5基、縄文時代中期後葉の住居跡11基、平安時代の住居跡3基、時代のわからない住居跡4基が検出されました。現在は長野県史跡に指定され縄文時代の竪穴住居を復原、展示しています。

2 老松場古墳

前方後円墳または前方後方墳 中央政府とのつながり
老松場古墳群は、伊那市東春近にあり、7基の古墳からなるものです。1号古墳は全長30メートルの双円墳とされてきました。

平成27年に東春近の住民有志による「老松場の丘・古墳公園」整備委員会が発足し、整備活動が始まり、墳丘の形が明確になってきました。それを見た東春近小学校6年生の児童たちが、「1号墳は前方後円墳ではないか」との疑問を持ち、市教育委員会の指導のもと、平成27年12月に測量調査を行いました。

50センチ間隔の等高線で描かれた測量図は確かに前方後円墳と見て取れるものであり、大きな話題になりました。

平成28年4月に県考古学会員らによる現地視察が行われ、「4世紀末から5世紀はじめの前方後円墳、または前方後方墳と見られる」との見解が出されました。その墳形から、南信地方では最古級、県内でも比較的古い前方後円墳である可能性も高く、今後の詳細な調査に期待したいところ です。



3 中世城館跡（殿島城址・小出城址）

殿島城は、殿島大和守重国が、天文年間（1532年～1555年）の初めに築城して、この地方を治めていた頃のものだそうです。

しかし、弘治2年（1556年）に武田信玄が伊那に侵入し

て降伏を迫ってきた時に、伊那の諸士は防備を堅くし毅然としてこれに対抗したものの、力及ばず、伊那市狐島の「蓮台場」にて磔にされ、後に黒河内（伊那市長谷）の「八人塚」に葬られたとする伝承があります。

4 一夜の城と高遠城の戦い



「富県一夜の城」は、平成 21 年以來各種の調査を経てさまざまなことがわかってきました。「一夜の城」は織田軍が一夜に築いたものではなく、以前からあったこの土地の豪族が築いていた城を織田軍が接收して利用したと思われることや、周辺に平安時代の住居址があったことから、大集落があった場所と考えられます。

現在、高遠町歴史博物館では、伊那市出身の空間デザイナー池上典氏が描いた「高遠城合戦の図・戦国屏風」展示中です。六

曲一隻の屏風の第六扇（左端）に、「貝沼の信忠陣（富県一夜の城）」が描かれています。

5 西春近を通る古い道 伊那街道 春日街道 歴史を感じる家並み



伊那部宿



宮田宿

伊那街道は三州街道とも呼ばれ、中山道の塩尻宿から岡崎城（愛知県岡崎市）に至る街道で、江戸時代には中山道の脇街道として栄えました。伊那市域の宿場は伊那部宿で次が宮田宿です。その間は街道でつながっていましたが、果たしてそのルートはどこだったのでしょうか。石仏や馬頭観音など古い石造物を手掛かりに歩いてルートを探してみよう。



左は古い写真ですが、「むじな坂」と呼ばれた街道にあった坂です。（「宮田村インターネット博物館」より）

6 伝兵衛井筋 江戸時代三峰川から水を引いて水田を開く



伊東伝兵衛は、幕末に高遠藩が行う事業に測量技師として参加した伊那市長谷杉島の名主で、この富県の水路のほかには伊那谷各地で水路開削、開墾を手掛け、現在の伊那谷の米作り土台を築いた偉人です。

伝兵衛が私財を投じて苦勞し開設した富県の「伝兵衛井筋」が現在も地域の人に守られています。

伊那市富県原新田一帯の水不足を解消するため、1650年代に、一旦は開設された水路が、

地形が急峻な難所「鞠ヶ鼻」の崩落で、一時は放置され、その後復旧を図りましたがうまくいかず、200年近くたった1832年に4里にも及ぶ「伝兵衛井筋」の改修が完成したのです。その後も、維持管理費の捻出のため、農家との調整が続きましたが、話し合いは難しいものだったようです。

そうしたなか、1862年に伊東伝兵衛はこの世を去ることになりますが、「伝兵衛」の名がついた水路は、現在も農地を潤し、良質なおいしい米を作り続けています。

7 諏訪形の猪垣跡他 動物から水田を守る



猪垣は、藤沢川から太田切川に至る標高700mの地域に作られたもので、現在はそのうち40mが復元されています。

元禄前にはもうできていたのではないかとわれ、その後、寛保元年(1741)と文化5年(1808)に宮田と共同して再普請が行われたそうですが、中でも文化5年の再普請は、全体で延べ7200人余、諏訪形だけでも延べ2600人余の人足が出たと言いますから、かなり大規模な工事であったよう

ですね。

8 お寺と文化財

東春近：光久寺・宗福寺・護国寺・普門庵・薬師庵 西春近：法音寺・常輪寺・法正寺・深妙寺
○アジサイで有名な深妙寺



平安時代、権現信仰(密教)の修行道場として、権現山のふもとに作られました。

鎌倉時代には、幕府から池上弥次郎が派遣され、伊那春近領の政所長官としてこの地域を治めました。

池上弥次郎は自分がお坊さんになって日蓮宗に改宗、「深妙寺」と名付けました。慶長年間に今の場所に移り、日蓮上人の教えを広める中心道場の役割を果たしています。

今は、「観音様とアジサイの寺」として知られています。

○ほかのお寺は

光久寺（東春近）：室町時代の貴族二条持通が篤く信仰し、位牌も残っている。

宗福寺（東春近田原）：戦後の保育事業に特色あり。

護国寺（東春近）：弘仁4年（823）最澄が上野国に寺院を作った帰途、釈迦像を置いたとする伝承あり。古墳等古代文化との関連が推定される。

9 飯島国俊らがつくった産業組合製糸

今のJA春富支所のところに組合製糸工場があった



上伊那はかつて、明治から昭和初期にかけて養蚕がたいへん盛んな場所でした。生糸商人の買い叩きに対し、養蚕農家は団結して組合製糸を作り対抗しました。その中心として活躍したのが東春近の飯島国俊です。これが農協運動の発祥とも言われています。その後、いくつもあった組合製糸を統合した龍水社は、地域経済を牽引する役割を果たしてきました。しかし、生糸価格の低迷などから養蚕農家は減少の一途をたどり、龍水社は平成10年にJA上伊那に承継、そして平成29年3月にJA上伊那の100%出資

の子会社 株式会社グレースに業務承継されました。

10 伊那電気鉄道（今の飯田線） 駅（下島・赤木・沢渡）と電車

11 災害の記憶 36 災害・平成18年7月豪雨



崩落する殿島橋



豪雨のしぶきで白く霞んだ伊那市の三峰川周辺（7月18日）

○広く伊那市の歴史を探る

- 1 高遠城と城下町高遠 高遠藩・進徳館・人物（阪本天山・伊澤修二・伊澤多喜男他）
- 2 高遠石工の残した美しい石仏たち
- 3 伊那市立高遠町歴史博物館
- 4 伊那市創造館

【参考】説明文章や写真は、伊那市ホームページ、（一社）長野伊那谷観光局ホームページ、伊那谷ネット（伊那ケーブルビジョン）、宮田村インターネット博物館、長野県土地改良事業団体連合会ホームページ（水土里ネット）、（株）グレースホームページ、『砂防と治水』2007年6月号を参考にしました。